

2018年3月期第3四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q. 全体: 今期（2018年3月期）の業績予想の営業利益が5億円増加しているのに対し、経常利益は3億円減少している理由は？

A. 営業利益については、主に PE における売上の上方修正に伴う増加です。経常利益については、営業外費用の増加による減少です。

Q. 全体: 今期の設備投資は、「彦根グランドデザイン計画^{*}」を含めて145億円との予想（前期比+63億円）だが、来期の予想規模は？

A. 彦根での設備関連の整備もあり、増額を予想しています。

Q. SE: 3Q（第3四半期、以下同様）受注高が、883億円と異次元的な高水準となった背景は？

A. デバイス別では、主にメモリー（特に DRAM）が強く、ファウンドリー（1Qと2Qでは、占率が低迷）も想定どおり再上昇したほか、その他のデバイスも総じて想定より上振れしたことによります。また、新興の中国メーカーからの受注も寄与しました。

Q. SE: 4Qの受注ガイダンスは？その後のトレンドは？

A. 600億円前後の高水準イメージです。強いトレンドは、当面は続くと予想しています。

Q. SE: 2018年のWFE（前工程装置市場）の見方と今後の市場見通しは？

A. CY2018年は、CY2017年比で+6%程度と予想しています。

Q. GA: 3Q累計（2017年4月～12月）、前年同期比で増収増益、収益性も改善した背景は？

A. 売上の増加と、為替の影響が寄与しました。PODの売上が、米国のみならず、国内でも増加しました。また、インク売上が伸長し、利益に貢献しています。今後も、売上水準の引き上げ、および、収益性向上を目指します。

Q. FT: 2Qと比べ、3Qは営業利益率が低いのはなぜか？

A. 2Qから発生している（株）SCREEN ラミナテック（7月1日設立）ののれん代や、一時的なコスト高の影響によるものです。今後は、巡航速度の営業利益率（10%程度）へと回復することを予想しています。

Q. FT: 受注高が 143 億円と高水準だが、その内訳は？ 4Q の受注予想と今後の動向は？

A. 3Q の受注全体の OLED 関連比率は 70%程度（2Q: 40%程度）となり、売上構成比率も上昇しました。加えて、新規事業領域（成膜など）も 20%程度となりました。
今後も OLED 比率は高水準（30～40%程度）に推移する見込みです（四半期により多少差異あり）。また、新規では、リチウムイオン電池向けへの継続的な受注を予想しています。
4Q の受注高は、3Q に始まった G10.5 の続きを含め、200 億円前後を見込んでいます。

Q. PE: 3Q 累計は、売上、利益ともに好調だが、その背景は？また、継続性は？

A. 3Q 累計では、高性能スマートフォン向け PCB 需要に牽引され、主力の直接描画装置が好調でした（今期の通期予想の売上・利益の上方修正に寄与）。スマートフォン以外では、車載向け PCB 需要の増加に期待しています（特に 2018 年後半）。

〔備考〕

HD: ホールディングス、SE: 半導体機器事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

* ニュースリリース: [半導体製造装置の生産体制を刷新 ～生産効率向上と増産に向けて～](#)

半導体事業の収益性向上に向けて従前より取り組んできた「生産革新プロジェクト」のコアプログラムの始動により、収益性のさらなる改善とともに生産能力の増強を目指すもの。

以上